

6月15日(木)

守山市立守山小学校と守山市立認定こども園守山幼稚園を訪問しました！

対談テーマ

幼保小接続を通じた保育・授業の質の向上の取組と今後の展開について

「学びに向かう力推進事業」で昨年度、架け橋期※のカリキュラムを作成され、今年度はさらなる充実に取り組み始める守山小学校および守山幼稚園の教育活動を見聞し、これまでの取組の成果と今後の展開について対談しました。

訪問した委員

土井 真一 委員 野村 早苗 委員
塚本 晃弘 委員



※「架け橋期」とは5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期のことを言います。

守山市立認定こども園守山幼稚園について



一人一人が夢中になって遊びを主体的に楽しみ、多様な体験を重ねる中で、生きる力や学びの基盤を育てられます。5歳児では染紙遊びを繰り返しながら楽しんで、自分なりに考えたり工夫したりして表現することを楽しむ姿が見られました。

意見交換より

委員：小学校側から見て、守山小学校と連携している守山幼稚園の子と、他の園から来る子とでは何か違いはあるか。

小学校：守山幼稚園と小学校が交流しているように、他の園との交流もあるので、特別な違いはない。立地条件的に他の園よりもたくさん交流ができるとは感じている。

幼稚園：園児、児童の交流の機会だけでなく、職員同士がお互いの教育内容を理解する機会があることが大きい。

守山市立守山小学校

青少年赤十字の発祥校として「いい学校をつくろう」～気づき・考え・実行する～を合言葉に主体的に学ぶ子どもの育成を「自立を目指した幼少連携」を通して進めておられます。1年生の自立心・思考力の芽生えを意識した授業を参観しました。



委員：小学校の先生と園の先生とで、時間的に交流するのが難しいなど、事業を進める上で戸惑ったことはあったか。

幼稚園：園では目に見えにくい内面の育ちを大事にしている言葉で伝えるのが難しいと感じた。小学校の授業参観から今何ができるのか学ぶ機会となった。

小学校：小学校と園とでは子どもの成長の見取りに違いがあることを学んだ。実際に園に参観するためにはクラスを自習にする必要があるため参観する機会を作るのが難しい。